

試合での応援について

ジュニアの試合は、応援ゾーンがピッチに近いので、色々な声が選手や審判に届いてしまいます。そこで、お子様やチームのことを思うあまり、ヒートアップしてしまう傾向が多々見られます。これは、どこのチームでも同じようなことで、しかしその内容があまりのも行き過ぎる場面が目につく時があります。特に、選手の動き方やポジションについて、指示をする、子供たちの気持ちを煽るような応援です。学年担当コーチが、試合前にテーマを子供たちに話し、また日頃の練習でも試合の時はどのようにするかなどを指導しています。しかし、試合中に応援席から父親母親から言われるとそのようにしなければいけないと思い、コーチに言われたことと違う事をする場合があります。そうすると、コーチから注意を受け子供が迷うことになり、どっちの言うことを聞けばいいのかと悩んでしまいます。子供たちにとって、自分で考えるという力が伸びなかったり、指導方針でも掲げている「指示待ち人間」になってしまうことを経験上何回も見ています。子供たちの気持ちの部分では、なかなか難しいところでもあるのですが、調子が悪い時は悪い、良い時は良いとそれだけの事です。常に気持ちを煽られると、俗に言う「燃え尽き症候群」になってしまい、これから先が長い子供たちのサッカー人生に悪影響をおよぼし、サッカーをやめてしまうという、私達にとっても悲しい結果になりかねません。また、応援席から指示をすると、違反行為としてとらえられる場合がありますので、そういう行為はしないようお願いします。

さらに、サッカー界では「フェアプレーとリスペクト」を推進しています。

フェアプレーとは、ルールを守る事、相手を尊重する事、絶対に仕返しをしない事などです。また、「相手の失敗で勝ったことは本当に喜べるか」ということもこの中にふくまれています。**リスペクト**とは「大切に思う」事です。これは、自分や相手チーム、審判、指導者、保護者、応援する者すべてに求められています。特に、相手チームや審判に対してのリスペクトを、サッカーを取り巻く全ての人たちにという事になっています。